

2009年(平成21)12月

カルメル
霊性センターニュース



12月号

249

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一卷

第14章 邪推を避ける

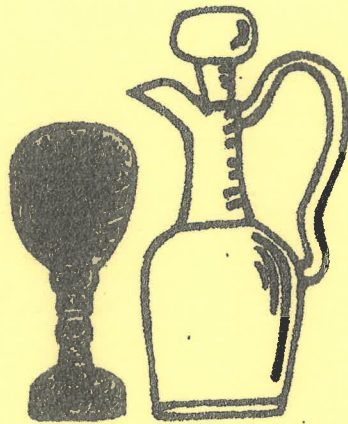
2 仲たがいを避けなさい。

しかし往々にして、わたしたちを左右するものが、内に隠れていたり、外部から来たりすることがある。多くの人々は、ひそかに意識せずに自分のためだけをはかって事をおこなっている。この人々は、事が思いのままに進んでいる間は、平和に生きているように見える。しかし事が思いどおりにいかなくなるとすぐにうろたえ、悲しむ。友人、同国人、修道者、信仰者の間にも、しばしば仲たがいが生じるのは、その感情と意見の相違のためである。

3 愛に導かれて

古くからの習慣を捨てることは、すぐにはむずかしい。また、誰も自分と違う意見を強られることを好まない。もしあなたが、どんな人も承諾しなければならないイエス・キリストの教えよりも、あなた自身の考えと手腕とに、かたくなに重きを置くならば、あなたはごくまれにしか、また長い年月の後にしか、霊の光に照らされないであろう。神は私たちが神にまったく服従し、神に対する激しい愛のために、人間的な考え方すべてを超えることを望んでおられるからである。

心の泉



聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 12 -



わたしのうちに 与えられた
神の恵み

わたしの恵に委ねます…

これこそが現実であり
真の受肉、

キリストとの同一化なのです

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

リジューカルメル会の幼きイエス像

十二月がまたやってきました…なんとあわだだしく日が過ぎてゆくのでしょう。まだまだすること、しなければならぬことが湧いてくるようにありますのに…。もちろんそんな雑踏の中の日々のうちに、「マラナタ、主よ、救いに来てください」と祈りのうちに主のご降誕をわたしたちは待っています。主が、この闇の世にまことの光として来られ、闇のわたしたちの心も照らしてくださることを願い希望して。

神さまは一人ひとりに恵みをくださっています。けれどもその恵みに委ねるというだけでは足りないと言っています。「神の恵み」ではまだ漠然としているというのです。神がわたしに与えられたその恵みに委ねてゆかなければいけないのだと。これこそが現実であり、真の受肉であると師は強調します。別の言い方をすれば、他のキリストとなる、キリストと同一化するということです。タボル山頂でおん父が「これはわたしの愛する子」といわれたようにわたしのうちにおん父が「愛する子キリスト」をご覧になるまでに、キリストと似たものとなるということです。神は一人ひとりをご自分の愛の呼びかけに答えることを期待していらっしゃる。「あなたの答え」を待っておられるのです。

真の世の光イエスの誕生を聖母マリアとともに心から待ち望むとは…日々の生活の具体的な闇の中で待ち望むことを意味しています。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

右の手のすること

九里 彰

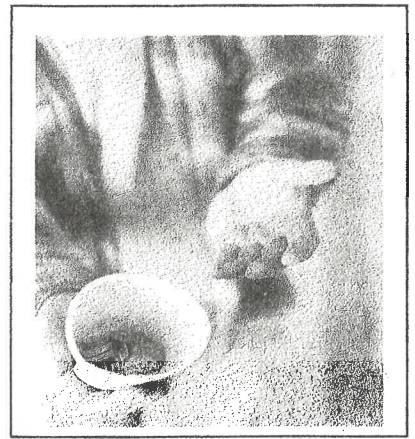
施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。(マタ 6 : 3-4)

先日、地方の駅前のホテルに泊まる機会があった。修道院の習慣でどうしても 6 時前には目が覚めてしまう。ベッドから起き上がり、7 階か 8 階の部屋の窓から下をのぞくと、駅前の大きな駐車場が広がっている。と、一人の駅員が黙々とその広い駐車場のごみをほうきで掃き集めている。薄明かりの中、ほとんど人影もない。毎日の日課としてやっているのであろうか。職務規定にあるとも思えない。掃除する者は、当然雇われているはずだ。彼の行為に気づいている者は、だれもいないように思われた。だから、特別、人からほめられることも、得することもないだろう。

それにしても、私たちの行為の大半は、無意識の内に、人の目を意識し、人からの評価を得ようとするものであることが多い。一種のパフォーマンスであり、演技である。東に飛ぶが、道元禅師も上述のキリストと同じようなことを言っておられる。

世人多く善事をなす時は人に知られんと思ひ、悪事をなす時は人に知られじと思ふによつて、この心冥衆の心になわざるによつて、所作の善事に感応なく、ひそかになす所の悪事には罰あるなり。…人も知らざる時にひそかに善事をなし、悪事をなして後は、発露して咎を悔ゆ。これかくのごとくすれば、すなわち密々になす所の善事には感応あり、… (『正法眼蔵随聞記』 2, 15 水野訳、筑摩叢書 5)

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (127)



イエスは私たち、貧しい者のところへ来る

最終的に問われることは、私たちがイエスやその言葉を知っているかどうかではなくて、イエスの心で人生を生きているかどうかということです。イエスの心とは、愛の心です。イエス自身、このことを、最後の審判について話す時、明らかにしています。「主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか」と人びとが尋ねると、イエスは答えます。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタ 25 : 37, 40)。

これは、私たちにとって大きな挑戦であると共に、慰めです。イエスは私たちのところに、貧しい者、病む者、死に行く者、受刑者、孤独な者、障害者、拒否されている者のところへ来るのです。そこで私たちは彼に出会い、そこで神の家に入る戸が私たちに開かれるのです。

(0804)

人の子の到来

私たちが神に属しており、まさに破壊的な世界に生きている時でさえ、神と共に安全であると霊的に知ることは、歴史におけるあらゆる混乱、恐怖、苦悶のただ中において、「人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来る」

(ルカ 21 : 27) のを垣間見させてくれます。イエスがこのことを、最後の出来事のように話しているにせよ、それは、あらゆる恐ろしいことがすべて過ぎ去った後に起こるもう一つ出来事といったものではありません。終わりの時がすでに今ここに来ているように、人の子も今ここに到来しているのです。それは、霊の領域での出来事であり、時間の境界内には属していないのです。

イエスとの交わりを生きている人びとは、今ここに、彼らの間に、イエスの第二の到来を見る目、聞く耳を持っています。「この時代が過ぎ去る前に、すべてのことが起こるだろう」(ルカ 21 : 32)。そしてこのことは、信心深い各時代にとって真実なのです。

(0916)

(九里 彰訳)

***** みことばのひびき *****

待降節第2主日

「人は皆神の救いを仰ぎ見る」 (ルカ 3:1-6)

今日の典礼の聖書朗読はどれも、神の言葉が私たちに希望を与えることを明らかにしています。私たちが救い主の到来を待つように。

第二朗読は、パウロがフィリピの教会の人たちに送った希望のメッセージを述べています。パウロは彼らがもう既に福音を生き始めているので、神が彼らと共に、また彼らを通して働き続けてくださることを保証します。パウロは仲間のキリスト者たちへの愛の思いにかられて、栄光のうちにキリストが来臨される日に備えるよう促します。神がいつもともにいてくださることを考え、将来のことは心配しないようにと勇気づけています。

福音朗読において、洗礼者ヨハネは神の国が近いことを知らせ、“全ての人は神の救いを見る”というイザヤのことばを確めます。主の道を整えるようにという、洗礼者ヨハネの呼びかけは、大天使ガブリエル、洗礼者ヨハネの父のザカリア、預言者イザヤを通してはっきり現わされた神の預言の成就のうちに実現されます。このようにヨハネは預言成就の時代を正式に始めます。その中心におられる方はイエスです。ヨハネは、近い将来、イエスがご自分の全てを捧げて成し遂げてくださる、人の死と罪の追放の状態からの新しい脱出についての神の約束の成就を宣言します。このイエスこそ、“全ての人は神の救いを見る”というイザヤの預言を成就する方なのです。

もしこれが私たちの待ち受けているメッセージなら、どのようにして待つべきなのでしょう？ 私たちは神から来る正義のマントで自分自身を包み、古い自分を捨て、正義の太陽であるキリストを身に着けることが必要です。これは私たちの生活を変えることを要求します。洗礼者ヨハネはイザヤの呼びかけを繰り返し、私たちを回心の活力ある動きの中に招き入れます。それは先ず私たちの内面から始まり、キリスト教の基本である愛の認識へと広がり、成長していきます。パウロの手紙の中の祈りにおいても同様に、愛が一番初めに置かれています。そこから理解すること（より深く知ること）を身に着けてその愛をより豊かにし、徐々に清い者、とがめられるところのない者となっていくよう導かれるのです。イザヤ書の“その道筋をまっすぐにせよ”という表現は比喩的なものであって、私たちの生活の根本的な見直しを勧めるものです。しかし個人的な回心だけでは十分ではありません。社会全体が変わることが絶対に必要です。不平等は除去され、正義がしっかりと据えられ、貧しい人や見捨てられた人が大事にされて、全ての人が神の救いを見るように、本物の関係をもう一度取り戻すべきです。このようにしてこそ、自分自身を救い主イエスキリスト誕生の喜びの日に向けて準備し、その結果として、周りの人々をイエスのところに導くことができるのです。

(Sr. Paulina)

待降節第三主日 ルカ 3, 10-18

「ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた」
(ルカ 3, 18)。

この言葉は、今日、待降節第三主日の福音の末尾のもので、この文章の中の三つの単語に注目してみましょう。第一は、「勧めをする」と訳出されている単語ですが、勧告をする、慰める、励ますとの意味も持っています。「ルカによる福音」の続編、「使徒言行録」の中では、福音の宣教者パウロの言動を要約して使用される言葉です。「パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げてからマケドニア州へと出発した。そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシャに来て・・・」(使徒言行録 20, 1-2)。このこと以上に眼を引くのは、「福音を告げ知らせる」との表現です。イエスの十字架の死と復活、そして聖霊降臨後の教会の宣教者特有の活動、「福音」と「告げ知らせる」との言葉がヨハネに帰されています。イエスの先駆者、洗礼者ヨハネは、福音の宣教者たちの先駆者でもあると言いたいのでしょうか。

確かに、洗礼者ヨハネと教会の宣教者の間には、厳然とした相違があります。その違いは、ナザレのイエスと言う分水嶺によるものです。イエスが教えた、特にその十字架の死と復活で証しする天の御父の真実な姿、愛と赦しに満ちた姿を、ヨハネは知りません。この御父に、わたしたちは子として、つまり、罰、審判への恐れからではなく、信頼と愛から近づくことが許されていることは、旧約の頂点である先駆者ヨハネも、人間としてどれほど真摯、誠実であっても、思いが至っていなかったのです。最初の福音宣教者たち、ペトロもパウロも、イエスを裏切り、迫害した罪人である自分がイエスの死と復活によって無償で赦された、そして、新しい者とされた、この救いを自分の体験を通して知り、その生涯を宣教にささげています。

さて、わたしたちは、教会の宣教によって福音を知らされています。しかし、その生き方は、共に生きる人々、その多くは、まだイエスとその福音を知らない人々の中で、洗礼者ヨハネと同じように、いや、それ以上に、また、「さまざまな勧め、慰め」を与え、福音を告げ知らせるものとなっているのでしょうか。「わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます」(2コリント 1, 4)。

ルカ 渡辺幹夫

待降節第4主日

「マリアは旅立ち、急いで山地に向い……」

(ルカ1:39~45)

待降節第4主日は、神を信頼しまわりの人達と喜びを分かち合うように私たちが招かれています。マリアは天使の言葉に信頼をおき、エリザベトとの喜びを共にするために急ぎました。妊娠しているこの二人の女の人の出会いは、イエスの到来を準備するために4つのアプローチを示唆しています。

a) アプローチ1 — 神への愛のみの場合：このような人たちの精神は熱狂的な面が強調されます。彼らは細かい点まできちょうめんに日曜日の義務を守り、きちんと家族でお祈りをし、たくさんのノヴェナに参加します。しかし、彼らには隣人や、親類、友人たちのための時間はありません。よきサマリア人のたとえ話に出てくる司祭やレヴィ人には、けがをした人のための時間はありませんでした。それは「私と私の神の姿勢」です。祭儀重視の精神です。

b) アプローチ2 — 隣人に対する愛のみの場合：このような人たちには神のために時間がありません。日曜日のミサや家族の祈りは優先されません。活動や、隣人への小さな奉仕、親類の訪問で大変快適に過ごします。「私はこれやあれやをしています」と一人が言い始めます。イエスは「あなたはあまりにたくさんのことを心配しすぎます」とマルタを非難されました。それは「私と私の仕事の姿勢」です。活動中心の精神です。

c) アプローチ3 — 神への愛も隣人への愛もない場合：このような人たちには神への時間も隣人への時間ありません。彼らの目は自分たちの子供に高い教育を受けさせることや高いビジネスの基準を達成することなどに固定されています。これは宗教上及び社会上の義務を無視することで成し遂げられます。それは「私と私の家族の姿勢」です。自己中心的な精神です。

d) アプローチ4 — 神への愛と隣人への愛を両方持っている場合：— キリスト者の精神は両面を持つ一枚のコインといわれていますが、この両面を持ち合わせている人はあまりいません。この人たちは神への愛と隣人への愛をバランスよく持っています。イエスにとって隣人への愛は神への愛の言い換えです。マリアは、彼女の神への愛を彼女に対する神のご計画を受け入れるということによって表しました。マリアはこの愛を親類のエリザベトに会いに行くことによって、またカナの婚姻の折りに花婿を助けることによって言い換えました。

ミサはキリスト者の精神のこれら両面の美しいコンビネーションですから、私たちがミサを祝うときキリストへの情熱と人類へのあわれみで満たしてくださるように天の御父にお願いしましょう。

私の愛する友人たちへ、またイエス・キリストにおける兄弟姉妹たちへ。クリスマスと聖霊に満たされた新年2010年おめでとうございます。

(Sr. Paulina)

聖家族 ㊦ 2, 41-52

「イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮らしになった」(㊦ 2, 51)。

私事になりますが、ロザリオの喜びの玄義の第四と第五玄義を唱えるときに、いつも、特別な思いに捉えられます。その思いとは、永遠の御父の御子が、「両親に仕える」、原文により近い訳では「服従する」となるのですが、被造物である人間に服するものとなる秘儀の深さの測り難さへのものにてす。神の子が、受肉によって、人となった、つまり、わたしたちが服しているすべての法則、たとえば食物を摂取してゆかなければ生き続けられないと言った生物としての自然の法則、言語、慣習、学問や職業技能を他者に教えられなければならないといった社会的動物、人間社会の法則、そして、神、御父である方とのかかわりにおいても人間の宗教的規定に服された、この神秘です。聖パウロは書いています。「時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれたものとしてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にあるものを贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした」(ガラテヤ 4, 4-5)。「律法」を、モーセの律法と取るだけではなく、被造物としての人間が服するすべての法則と言い換えてもいいでしょう。神の御子イエスは、すべての法則を超越した何ものにも拘束されない自由な方であったのに、人間となることでいろいろと自由を拘束するしがらみの中に進んで入ってこられたのです。このイエスが行き着くところは、「神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、・・・人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリピ 2, 6-8)。こうして、わたしたちをすべての束縛から解放し、自由なものとしてくださったのです。その自由は、すべての拘束する法則を無くしてではなく、どのような状況の下にも「仕える愛」を生ききる自由なのですが。

聖パウロは、上記の言葉に先立って、「へりくだって、互いに相手を自分よりもすぐれた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意をはらいなさい」(フィリピ 2, 3-4)と書いています。ナザレの聖家族を満たし生かしていたのも、十字架の上でイエスが示したこの心の構えでした。実に、イエスは、その贖い主としての生涯を、人間である「両親に仕える」ことで始められたのです。

ルカ 渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (31)

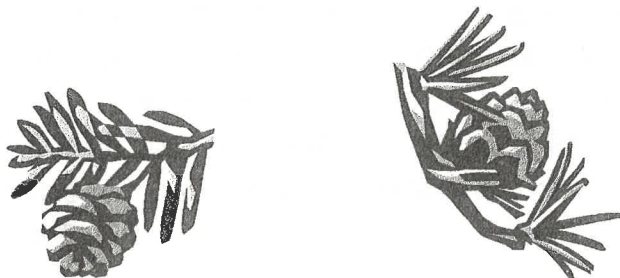
ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

神の母のアロンソ修道士の召命 (4)

このことがカルトゥージオ会の神父たちに知られると、院長は代理人の神父と共に、私と会って話すために修道士を送りましたが、私たちの聖なる神父（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）は彼らに許可を与えようとしませんでした。ここで注意すべきことは、私たちの聖なる神父は、家族であっても修練者に話すことをそれほど厳しく禁じなかったということです。というのも、それから二三日して、父が私を修道会から取りもどすために一そのことを父ははっきり言ったのですが一50 レグア（約 300Km）離れた所からやってきた時、私に会う許可を与え、修道院に三四日泊め、私とだけで何時間もいられるようにしてくれたからです。

カルトゥージオ会の神父たちは、結局、私と話すことなく去り、それから私たちの聖なる神父に、オリーブ油 1 荷分を寄付として送ってきました。私はどうしたらよいか分かりませんでした。とても大きな松の薪 40 荷分から私たちは免除されました。その松は、以前、オリーブ油の圧搾機のでこのために切り出したものです。人々の言うところによれば、修道院にとっては、大変なお金になるとのことでした。

私はカルトゥージオ会に深くかかわっていたので、修練院の一年間はずっと、そこへもどろうとする誘惑を何度も受けました。この誘惑を、私たちの神父は、このことを神父に伝えることすらなく、私から取り除いてくれました」。





…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

22. 十字架の聖テレジア・ベネディクタ(エディット・シュタイン) (1891-1942) — その1

エディット・シュタインは、1891年10月12日、ドイツ・ブレスラウの敬虔なユダヤ人家庭に、11人兄弟の末娘として生まれた。この日は、その年のユダヤ教の暦では、「贖罪の日」に当たっていた。10代の頃に無神論者となったが、学業優秀であった彼女は、著名なフッサールのもとで哲学を学び、現象学を研究、博士論文は『感情移入の問題について』であった。1921年、友人宅でたまたま手に取ったアピラの聖テレジアの『自叙伝』を一晩で読破、これこそが真理であると確信し、1922年1月1日、カトリック教会で受洗。1933年10月14日、ケルン・カルメル会に入会し、「十字架のテレジア・ベネディクタ(十字架に祝されたテレジア)」という修道名を受ける。後に彼女は語っている。「十字架ということを、私は当時誰の目にも明らかになりつつあった神の民の運命として理解しました。キリストの十字架の意味を知っている者は、すべての人々の名において、その十字架を担わなければならないのだと考えたのです。」

ユダヤ人迫害激化のため、オランダのエヒト・カルメル会に移るが——彼女は、姉妹たちを危険に陥れなくなかったのである——、カトリックの洗礼を受けていた姉のローザとともに逮捕された。真の平和のためのいけにえとして、また、イスラエル民族のための犠牲として、自己をイエスの聖心に奉献し、1942年8月9日にアウシュビッツで殉教者としてその命を捧げた。ユダヤ人移送列車と強制収容所内で Sr.テレジア・ベネディクタを目撃した人々は、彼女が平静であったこと、子供たちの世話をし、平和の雰囲気の人々にもたらしていたことを証言している。

『十字架の学問』をはじめとする数多くの深遠な著作を書き残し、それらは多くの言語に翻訳されている。1987年5月1日列福。1998年10月11日列聖。1999年10月1日、スウェーデンの聖ブリジット、シエナの聖カタリナとともに、ヨーロッパの守護の聖女として宣言される。



十字架の聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)

— 祈り —

おお、平和の君よ、あなたは、あなたを受け入れるすべての人々に光と平和をもたらされます。日々あなたと触れ合い、あなたが話されたみことばに聴き入り、それに従って生きることができるよう、助けてください。おお、神なる幼子よ、私はあなたの御手の中に私の手を置きます。私はあなたに従います。おお、あなたの神的な命を私の中にあふれさせてください。

私は、神の祭壇上へと赴きます。ここで大切なのは、私自身でも、私にかかわる小さくさいな事柄でもなく、贖いのための偉大ないけにえなのです。おお、主よ、私は、あなたの神的意思にすっかり自分自身をお委ねしています。私の心を、より大きく広く、成長させてください。そして、私の心から出て、神的な命に入ることができるようにしてください。

おお、私の神よ、私の靈魂を、聖なる喜びと勇気、あなたにお仕えするための力で満たしてください。私のうちにあなたの愛の火を燃え立たせ、私がこれから歩もうとしている一筋の道を共に歩んでください。私には、それほど遠くまで先が見えているわけではありません。けれども、地平線がもはや閉じようとする地点にたどり着いたならば、新しい視界が眼前に開け、平和に出会うことでしょう。

あなたの愛の不思議は、何と素晴らしいのでしょうか。
私たちは、驚嘆し、口ごもり、何も言えなくなってしまいます。
言葉も、精神も、役には立ちません。

* * * * *

この記事は、洗足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(養身カルメル会訳・編)

斜陽のなかの光

最近、私の心をかすめる言葉に、“斜陽”という言葉があります。熟語としては以前から知っていた“ことば”なのですが、何故こんなに頭と心に浮上すのだろうと思っていましたが、その正体が次第に分かってきた気がします。そこでこの正体を探る前に、この“斜陽”とは、どんな語感を現すのか 少し考えてみました。

- まず有名な文豪、太宰 治の小説の“斜陽”によれば、それは上流階級の人間の没落を現すものとして、描かれています。
- その他産業的にみれば、第2次世界大戦後の高度成長期後に見られた産業界に起こった景色も、一つの大きな経済的斜陽でした。

つまり既存の産業の中で、新興工業にその位置を譲り渡し、自分自身は撤退するというような動向が現われてきたことを指します。

具体的な1例としては、石油化学を中心とする重工業の目覚ましい発達があり、それは従来の軽工業を中心とした資本主義社会の産業構造（例えば繊維工業）を大きく後退させてしまったのでした。しかし産業革命は、世界の進歩に大いに貢献したのです。

つまり、それなりにうまくいっていたと思われることが傾いてきて、うまくいかなくなってきたことを指します。

それは他人ごとではありませんでした。修道会についても同様の定理が当てはまるようになった というのかどうか、気がついた時には、当てはまっていたのでした。それが何かと言え、少なくとも日本の現状ですが、若い修道会入会者が減少してきたということです。各修道会について言えば、それぞれ多少の相違はあったとしても、いつ時のように入会者が減少してきたこと、そして年期を重ねた修道者の老齢化などなど。あのときの隆盛時代に比べたら、修道会としての体力は確かに減少してきたかも知れません。

自然的にみるならば、不都合や不具合が“生き抜くこと”の決意を妨げるのは当然のことかも知れません。けれども神さまは、昔から人間をいじめる為に存在されたものではありませんでした。

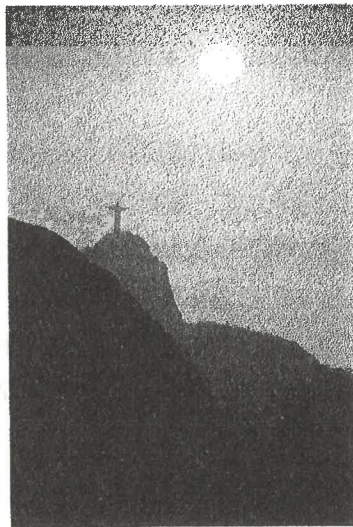
“生きる”ということは“あなた 人間は、一人で生きることではないのだよ、私（神）が、もっと大きい心と眼で見て、人間（特にあなた）のために大切な道を準備

してあげているのだよ。それはあなたの眼には今は見えない。そんな道を私と共に歩むなら、私のあの復活の光を、まばゆい程に体感することが出来ると思うよ”と言っておられると思うのです。

それが“十字架上の死”と“復活”というキリストご自身の現実の生き方を通して、私たちに示されたのだ と しみじみ思うこの頃です。

お告げのフランシスコ姉妹会

S r . 熊田 照子



友人Nがプレゼントだと云って大きな段ボールの箱を運んできました。中には季節のとれたての野菜が溢れんばかりに満載です。私は思わずして大きな歓声を上げて、両の掌を組み合わせ躍り上がってしまいました。

これまでに味わったことのない感動に包まれ、目を心を奪われました。何という見事な色彩、何という見事な形体の数々でしょうか。私は本当の宝石箱というものを見たことはないのですが、しかしながら例えるとすればこれはもう宝石箱としか云いようのないものです。赤、緑、白、橙、紫……と単純に並べてしまうことのできない正しく生きている色彩で、それぞれの形体とあいまって箱の中はひとつの完成された世界ともみえました。

さつま芋は手ごたえのある重さを備えたいきいきとした赤紫、長い葉を繁らせた人参は、もう人参色としか名付けようのないぬくもりの色です。売り屋さんでは出会ったことのないものも数ありました。西洋梨に似たこれは瓜なのでしょうか、柔らかな身にまといたような浅黄色をしています。淡い紫のちょっと小太りの大根も初めてみました。瓢箪の形をしたかぼちゃも珍しく両手で持ち上げて上下左右と眺めました。揺るぎのないどっしりした風格が何とも頼もしい感じです。里芋のシックなセピアの色合いは秋の装いと思えました。太陽が東に昇り一日が始動する 太陽が西に沈んで夜の帳が降りる という大地の営みを全身に宿す野菜たちの面面と、暫し愉悦の交わりの時を与えられました。

「見事だわ すごい作品ね」 「作者は私じゃない 神様の作品よ」

「心こめて育てたのね」 「ううん 私の方が大地に育てられてるのよ」

Nがそう云うと本当にその通りなのだろうと心底納得するのです。Nは畑を借りて季節の野菜をたくさん育てて収穫しています。土に触れているのが大好きと云います。その上Nは自分の畑だけでなく、他の人のため、共同体のために、東に西にとどこへでも出かけて行って、庭の清掃、畑の整備、花壇の世話にと労を尽くして奉仕しているのです。

唐突ですが、犬とか猫などのペットたちは、その飼い主によく似るといわれます。いわゆる通い合うのでしょう。その謂いで云うと宝石のようなこれらの野菜たちは、Nの生きる姿と、そして深い靈性とにととても似合っていて、しっかりと馴染み合っていると思えてなりません。

土に触れるのが好き、労を尽くして大地の恵みを収穫する、感謝を捧げて

それを食する、という所業に私は強い強い憧れがあります。私の全身が志向するのだと云っていい程の憧れの想いであるのですが、実のところはベランダプランターひとつ世話ができません。

生まれてから70余年、そのすべてを都会だけに棲息してしまい、また、私の知る限りでも、父、祖父、曾祖父、ともに核家族のサラリーマンという状況で、およそ土地への接触が欠けているというのか、土地への親和を持ち得たことがないのです。

思い出すことがあります。

戦争中に2年ほどでしょうか、熊本県の祖父母のもとに弟と二人で縁故疎開をしていたのですが、或る日、国民学校2年生の勤労奉仕で畑に赴き、畝を一本ずつ受け持って草取りをするようにと命ぜられ、作業が終わった時に私の分だけが青々とした草が点々と残っていて、幼心に大きな大きなショックを受けました。自分に対しても、また人に対しても、人間だけで精一杯なのだとい訳しつつ今日まで生きていますが、私の内に土への憧れは常にあり、なくなることはありません。

「お礼なんてダメよ」とNは云います。

「じゃあ とりあえずめでたし3回 主の祈り1回」

「それがいい それがいい」

真っ赤なつやつやのトマトを新生児の如くに洗いながら、土の香り残る葱の外皮を薄くそおっとはがしながら、私は心のうちにNが土に身をかがめ顔を寄せ手を動かす姿を追いつつ、心こめてめでたし3回、主の祈り1回を唱えました。

光の中にある時は光のうたを歌おう 闇の中にある時は闇のうたを歌おう
ということばを、私は若い日に、深い闇のなかにあつた時におぼえました。

光と闇はこよなく等価であるのですが、今日のこのひと時は云ってみればわが魂は光のうたを歌っているというのでしょうか。

祈りの声は主のもとへとまっすぐにまっすぐに飛んでいくようでした。

いのちの言葉 11月

金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。
(マタイ 19・24)

このみ言葉にハッとさせられはしませんか。

私たちが当惑を感じ、どうすればいいだろうと考えるのも、当然でしょう。このイエスの言葉は、単なる言い回しではありません。私たちは、み言葉の中味を薄めずに、真剣に受け止める必要があります。

金持ちに対するイエスの態度から、このみ言葉の真の意味を理解するよう努めましょう。イエスは、裕福な人々とも関わりを持たれ、財産の半分だけを与えたザアカイには、「今日この家に救いが訪れた」と言われました。

また、使徒言行録によれば、初代教会では、富の共有が自由に行われており、キリスト者たちは財産をすべて放棄するよう求められはしませんでした。

イエスは、キリスト者共同体を作る上で、富を捨て、ご自分に従うよう招かれた人だけをお集めになったわけではありません。

にもかかわらずイエスは「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」と言われます。

ではイエスが断罪されるのは、何でしょう。この世の富自体ではなく、富に執着する裕福な人々でした。

なぜかといえば、答えは明らかです。すべてのものは神に属していますが、金持ちは、財産が自分のものであるかのような態度を取るからです。

富は、人の心から神のための場所をたや

すく奪い取り、人の目をくらませ、あらゆる悪徳にひきずりこむものです。

使徒パウロも記しています。「金持ちになろうとする者は、誘惑、畏、無分別で有害なさまざまな欲望に陥ります。その欲望が、人を滅亡と破滅に陥れます。金銭の欲は、すべての悪の根です。金銭を追い求めるうちに信仰から迷い出て、さまざまなひどい苦しみで突き刺された者もいます。」¹

哲学者プラトンも言っています。「非常に善良な人が、非常に金持ちであることは、ありえない」と。

では、財産を持っている人は、どうすればいいのでしょうか。神に対して完全に開かれた、自由な心を持つこと、自分は財産の管理者に過ぎないと考えことです。ヨハネ・パウロ二世も言われたように、その財産は、社会のもの、他の人々のものでもあるからです。

この世の富は、それ自体が悪いものではないので、見下げるべきではありませんが、正しく用いることが必要です。

私たちの手が富に触れていても、心は富から遠く離れていなければなりません。すなわち、富が他の人々に役立つよう、用いることが大切です。

ある人が裕福であるとすれば、それは、他の人のためなのです。

¹ 一テモテ 6・9-10

金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。

でも、次のように言いたくなるかもしれません。「私は金持ちでないから、このみ言葉は私のためではない」と。

注意してください。このイエスの言葉を聞いて非常に驚いた弟子たちは、「それでは、だれが救われるのだろうか」²と尋ねたのですが、この質問から、イエスのみ言葉がある意味ですべての人に関わることがわかるでしょう。

また、イエスに従うためすべてを後にした人でも、その魂が多くの人に執着してしまう可能性があります。自分のわずかな持ち物に触れられた貧しい人が、相手をののしるとしたら、その人も、神の前では金持ちになるのです。

キアラ・ルービック

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのち言葉は、1979年7月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

3週間程前、教会で久しぶりに顔を見た友人の顔が、すごく痩せていました。聞いてみると不景気になって毎日仕事早く終わる為、食費が削られてあまり食べられない…とのことでした。次の日曜日にまた会えることが分かっていたので、お米や食物を用意して渡しました。私にとってめったにないことなので、こんなことをして良かったかしら、と少し心配していましたが、その日の夜に早速お礼の電話があり、ホッとしました。そして、まもなく、別の友人から新米を買って来たからあげたいので取りに来て欲しいと連絡がありました。お米は私が前者の友人にあげたよりも多く、しかも頂きもののサツマイモのおまけまで付いていました。どちらの出来事も、そんなに無いことなのに、ひと月以内に2つのことが起こりました。しかも、息子の家族の為に、お米を買って贈りたいと思っていたので、それをそのまま贈ることにしました。

(名古屋 K)

連絡先

フォコラーレ：

03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

² マタイ 19・25

年毎に秋をさびしきものなるをわきて今年の秋はさびしき

去年の秋窓べに植ゑし紅椿咲きか散らむか見る人なしに

西田幾多郎 寸心

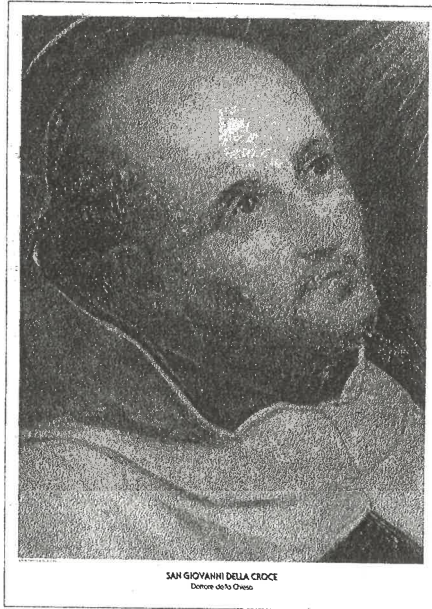
カルメル会の企画案内



十字架の聖ヨハネの祭日

ミサのご案内

12月14日(月) 6:30 ミサ
 10:00 ミサと小講話
 19:00 晩の祈りとミサ



SAN GIOVANNI DELLA CROCE
 Donore dell'Osio

「どこにお隠れになったのですか？」

16世紀ヨーロッパ社会の大きな動乱期に、十字架の聖ヨハネは、キリストのみ顔の光を探しながら生き抜き、闇の中を導く光の道を教会に示しました。「キリストのみ顔の観想」へと呼びかけられる現代、十字架の聖ヨハネをミサの中で記念し、神不在の世界の闇の中に、真実の神を探す道をたどりましょう。

上野毛カルメル会修道院

158-0093
 世田谷区上野毛2-14-25
 (東急大井町線「上野毛」駅下車)

上野毛霊性センター '09年12月～'11年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2009年 (09年は、土曜日 夕食～日曜日16時)

⑥ 12月19日～20日

⑦ 2010/ 2月27日～28日

2010年 (毎回金曜日 夕食～土曜日16時)

① 4月 9日～10日

② 6月18日～19日

③ 9月10日～11日

④ 11月12日～13日

※2010年は、上述日程での深読黙想(指導:新井延和神父)となります。

2. 奉獻生活者のための黙想会

2009年

D 12月26日(土) 夕食～ '2010/1月4日(月) 朝 中川博道神父

※A～C終了致しました。

2010年

A 7月20日(火) 夕食～7月29日(木) 朝 松田浩一神父

B 7月31日(土) 夕食～8月 9日(月) 朝 福田正範神父

C 8月11日(水) 夕食～8月20日(水) 朝 中川博道神父

D 11月 2日(火) 夕食～11月11日(木) 朝 福田正範神父

E 12月27日(土) 夕食～ 1月 5日(水) 朝 中川博道神父

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時)

2009年間共通テーマ《祈りを深める》

11月26日 ミサの祈り

今泉 健神父

2010/ 1月28日 主の祈り

松田浩一神父

2010年間共通テーマ 《道》

4月22日	神の愛に包まれる道	松田浩一神父
6月17日	主よ、あなたの道を教えて下さい	福田正範神父
9月16日	真福八端を生きるイエスの道	今泉 健神父
11月18日	神の国への道	ベルナルド神父
1月20日	荒野をゆく道	中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人（毎回金曜日 10時～16時）

2009年

12月11日	十字架の聖ヨハネ	ベルナルド神父
2010/2月12日	聖エリア	中川博道神父

2010年

5月21日	三位一体のエリザベット	福田正範神父
7月 9日	カルメル山の聖母	ベルナルド神父
10月29日	アピラの聖テレジア	福田正範神父
12月17日	リジューの聖テレジア	今泉 健神父
2011/ 2月25日	十字架の聖ヨハネ	中川博道神父

5. 「社会人のための心の休息」—日常のキリスト教霊性を求めて—

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時)新しい企画

松田浩一神父

2009年⑦ 2010/ 1月29日(金)～30日(土)

⑧ 2月26日(金)～27日(土)

※①～⑥ 終了

2010年

① 4月23日(金)～24日(土)

② 5月14日(金)～15日(土)

③ 6月25日(金)～26日(土)

④ 7月 9日(金)～10日(土)

尚、この企画は社会人（働いている人）の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6.青年黙想会（男女） 中川博道神父・神学生
 5月22日（土）16時 ～23日（日）16時
 11月20日（土）16時 ～23日（火）14時

7.召命黙想会（男女） 中川博道神父・神学生
 10月9日（土）16時 ～11日（月）16時

8.祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

2010 4月1日（木）～4日（日） 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2010 12月24日（金）～25日（土）《講話なし、夕食なし》

9.特別黙想会 伊従信子NDV テーマ：「私は神を見たい」

5月28日（金）20時～30日（日）16時（28日は夕食を済ませてご参加ください）

10月15日（金）20時～17日（日）16時（15日は夕食を済ませてご参加ください）

10.待降節黙想会

12月 3日（金）夕食なし～5日（日）昼まで 指導：カルメル会士

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
 またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
 のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたしません）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2009年～2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

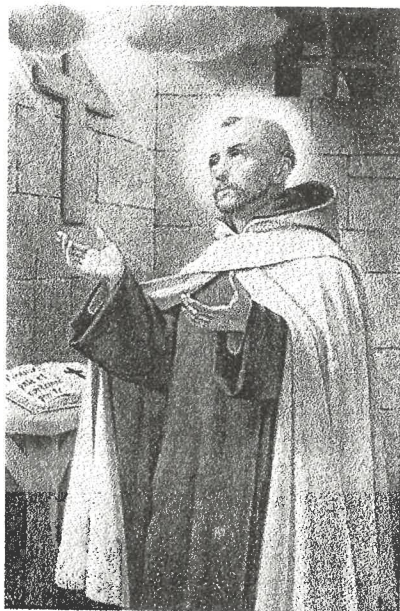
《19:15～20:45》

了 7月21日	了 7月24日
了 9月8日	了 9月11日
了 10月27日	了 10月30日
了 11月24日	11月27日
12月15日	12月18日
2010年 1月19日	1月22日
2月23日	2月26日
3月9日	3月12日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

金曜黙想会・「カルメルの聖人」

「十字架の聖ヨハネ」



日時： 12月11日(金) 10時～16時
場所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
担当： ベルナルド神父
会場費： 3,500円

詳細に関するお問合せは、下記までどうぞ。

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
電話 03 (5706) 7355
FAX 03 (3704) 1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会・カルメルの聖人

「聖エリア」 — エリアと共に生きている神をさがす —



エリアのイコン…
火の馬と車輪で昇天するエリア

対 象: どなたでも
日 時: 2月12日(金) 10時～16時
場 所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
担 当: 中川博道 神父
会 費: 3,500円

お申込みは下記〈聖テレジア修道院(黙想)〉へお願い致します。

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
電話 03(5706)7355
FAX 03(3704)1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp

待降節黙想会



テーマ:

「闇夜に輝く、
神のみことば」

日 時：12月4日(金)20時～ 6日(日)16時

指 導：松田 浩一神父

- ・ 4日は、夕食を済ませてご参加ください。
- ・ 詳細は、下記アドレスにお問い合わせください。

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

電話 03 (5706) 7355

FAX 03 (3704) 1764

Email: mokusou@carmel-monastery.jp

『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的視察)を促進しますので、この静かな一時の中で短い霊的同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてユースティングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- ① 2010年 1月29日(金)～30日(土)
- ② 2月26日(金)～27日(土)
- ③ 4月23日(金)～24日(土)
- ④ 5月14日(金)～15日(土)
- ⑤ 6月24日(金)～26日(土)
- ⑥ 7月 9日(金)～10日(土)

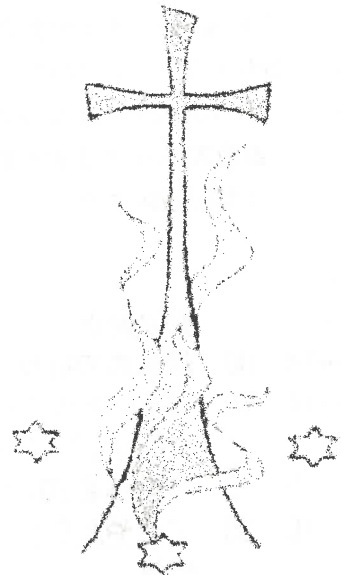
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764
E-Mail: mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル・ユース・クラブ

キリスト者青年の集い

私たちの心の中に誕生する
救い主イエス・キリスト

約 2000 年前、中東のパレスチナに生まれた世の救い主イエス・キリスト。この救い主は、現在も私たちの心の中に生まれることを望んでいます。私たちの心の内面の救いのために、このことを仲間と共に黙想してみませんか。

日時：12月23日(水) 13:45 ~ ~~14:30~~^{16:30}
対象：18歳以上 35歳までの 青年男女
スタッフ：松田神父・古川神学生
場所：カルメル修道会テレジア修道院(黙想)
東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分
(世田谷区上野毛2-14-25)



プログラム：

- 13:30~ 受付開始
- 13:45~14:00 はじめの祈り
- 14:00~14:50 『私たちの心の中のイエス・キリストの誕生』について(黙想)
- 15:00~15:30 御聖体を前にしての祈り・賛美・祝福
- 15:40~16:30 ささやかなクリスマス会
- 16:30 解散

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメルの霊性(スピリチュアリティ)の中で、祈りと分か合いのひと時をすごす集いです。

☆ 申込は不要です。お問い合わせは、FAXかE-mailで住所、氏名、年齢をお書きの上、下記まで。

※各種のご案内は、ホームページからご覧いただけます。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>

カルメル会 カルメル・ユース・クラブ(C.Y.C.) 係 (松田神父)
[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
 指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
 聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる
 人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生き
 ることです。皆様のご参加をお待ちしています。

- * 日時：① 2009年12月19日（土）18時～20日（日）16時
 ② 2010年 2月27日（土）18時～28日（日）16時

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

降誕祭のミサにあずかるための黙想

*日時: 12月24日(木)夕食なし～25日(金)朝食後10時まで
24日(木)は、午後3時より入室できます。

講話は、ありません。

夜半のミサより主のご降誕(日中のミサ)にかけて
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過
ごしましょう。

*費用: ￥4000

*お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話:03-5706-7355・FAX03-3704-1764



2009 黙想会案内

1. 聖書深読

一日 (午前10時から午後4時)

12月12日 (土)

新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

12月 9日 暗 夜

九里彰神父

3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月5日 (土)～6日 (日)

九里彰神父

4. 奉獻生活者のための黙想 (午後5時～午前9時)

12月26日 (土)～1月4日 (月)

新井延和神父

2010年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

[聖書深読黙想会]	1月23日 (土)～24日 (日)		渡辺幹夫神父
・1泊2日	3月 6日 (土)～ 7日 (日)		九里 彰神父
[一般のための黙想]	5月29日 (土)～30日 (日)	三位一体	新井延和神父
・1泊2日	7月10日 (土)～11日 (日)	マリア、喜びの人	渡辺幹夫神父
(午後5時～午後4時)	9月25日 (土)～26日 (日)	幼子の平和	九里 彰神父
	11月20日 (土)～21日 (日)	王であるキリスト	新井延和神父
[聖書深読黙想会]	2月13日 (土)		新井延和神父
・1日	4月10日 (土)		渡辺幹夫神父
(午前10時～午後4時)	6月26日 (土)		新井延和神父
	10月30日 (土)		九里 彰神父
	12月11日 (土)		新井延和神父
・水曜の黙想	1月 6日 (水)	キリスト教と礼拝	九里 彰神父
(午前10時～午後4時)	2月 3日 (水)	祈り	新井延和神父
	3月24日 (水)	最後の晩餐	渡辺幹夫神父
	4月21日 (水)	復活の喜び	アダミニ神父
	5月12日 (水)	生きておられる主	九里 彰神父
	6月 9日 (水)	司祭と聖体	渡辺幹夫神父
	7月21日 (水)	カルメル山の聖母マリア	新井延和神父
	9月15日 (水)	福音と共にキリストに従う道	Sr. ポーリン
	10月13日 (水)	アビラの聖テレサ	アロイジオ神父
	11月10日 (水)	三位一体のエリザベット	伊従信子師
	12月15日 (水)	御言葉は人となった	九里 彰神父

- ・四旬節の黙想 3月13日(土)～3月14日(日) 新井延和神父
(午後5時～午後4時)
- ・待降節の黙想 12月4日(土)～12月5日(日) 渡辺幹夫神父
(午後5時～午後4時)
- ・聖テレーズの黙想 9月30日(木)～10月1日(金) 伊従信子師
(午後5時～午後4時)
- 〔一般のための黙想〕 4月29日(木)～5月5日(水) 九里 彰神父
修道者も可能 復活した主との出会い
(午後5時～午前9時)
- 召命黙想会 5月8日(土)～5月9日(日) 九里 彰神父
対象:40才以下の青年男女 収穫は多いが働き手は少ない
(午後5時～午後4時)
- 奉獻生活者の黙想 8月2日(月)～8月11日(水) 新井延和神父
(午後5時～午前9時) 8月18日(水)～8月27日(金) 九里 彰神父
10月12日(火)～10月21日(木) 九里 彰神父
12月27日(月)～1月5日(水) 新井延和神父
- 〔青年のための黙想〕 11月6日(土)～11月7日(日) 今泉 健神父
・男女性のため
(午前10時～午後5時)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

*お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX あるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問合せ下さるようお願いいたします。

宇治カルメル会 テレジア修道院 (黙想)
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
Tel 0774-32-7016 / Fax 0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊修行～(2009)

月	日	曜日	テーマ(仮題名)	参照	担当者
1月	11日	月(祝)	信仰者の祖 アブラハムの歩み	創世記 12章	中川博道神父
2月	20日	土	問題性からの脱出の道・同伴する神	出エジプト記 3章	松田浩一神父
3月	22日	月(祝)	解放への道 十戒：荒野で与えられた生きる規範	十戒	中川博道神父
4月	24日	土	主が教えてくださった祈りの道	主の祈りの道	新井延和神父
5月	22日	土	聖テレジアの示した道	完徳の道	松田浩一神父
6月	26日	土	真福八端を生きるイエスの道	マタイ5章	今泉健神父
7月	19日	月(祝)	カルメル山登攀の道 十字架の聖ヨハネの示した道	カルメル山登攀	九里彰神父
9月	18日	土	貞潔で、貧しく従順な方イエスに従う歩み	三誓願の福音的 勧告の道	Sr.パウリーナ
10月	30日	土	小さき道 幼きイエスの聖テレジア		Sr.ベアトリス
11月	23日	火(祝)	主が教えてくださった新しい旋の道 「私が愛したように」	ヨハネ 13章を めぐって	三上和久神父

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:40～ 講話【1】
 - 12:00～ 昼食
 - 13:00～ 赦しの秘跡または短い面接
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へVJカキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825
 一泊修行係 〒465-0058 名古屋市名東区員船3-2115 小林 厚・晃子 TEL 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

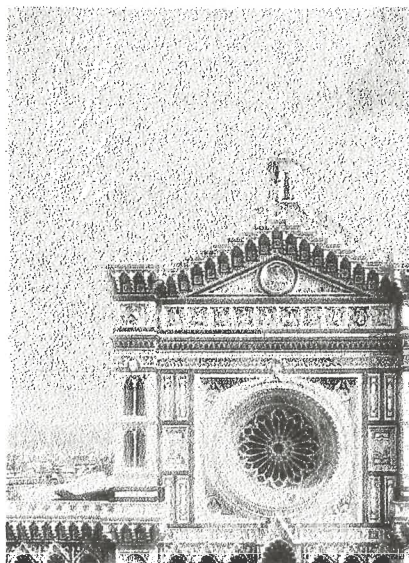
所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読むー



雑誌「カルメル」NO333 (2009年夏号)「今日の靈性」 発売中

- 「馬屋」の靈性 (2) …高橋重幸
- マリアの旅 (4) —外へ出ていく旅、内なる神秘に向かう旅 (2) …中川博道
- 今日の歌 (4) …ペトロ・アロイジオ
- リジューの聖テレーズ 巡礼する旅人 …ユージーン・マッカーフリー
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット (10) 祈りの人 …伊従信子
- 「小さい道」の巡礼者 (5)
- テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
- 「貧しいキリストの模倣」 アシジの聖フランシスコの生涯 …九里 彰
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (25)
- 聖靈に遣わされて …伊従信子
- 百八十八殉教者の列福に思う …谷口正子
- 愛の断章 (12) …奥村一郎

雑誌「カルメル」NO334（2009年秋号）「今日の靈性」

新刊

「御胎内の御子イエスも祝せられたもう」

マリアの旅（5）

今日の歌（5）

「どこにお隠れになったのですか」

—十字架の聖ヨハネに見る靈の旅路

エリザベットの「魂のこだま」、ギット（11）

—同じ理想を目指して

エディット・シュタイン

—ユダヤ人の改宗者、そしてカルメル会の殉教者

「小さい道」の巡礼者（6）

—テレーズの修練者—三位一体のマリー

幼きイエスのマリー・エウジェヌヌ師（26）

—マリア

愛の断章（13） …奥村一郎

…高橋重幸

…中川博道

…ペトロ・アロイジオ

…九里 彰

…伊従信子

…ベアトリス・デクンハ

…中山眞里

…伊従信子

雑誌「カルメル」 2009年特集号 発売中

「闇に光を」—現代社会に芽生える新しい神との出会い—

購読のご案内

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL（03）5706-8356）

待望の再販

『自叙伝』（サンパウロ社）、『完徳の道』『靈魂の城』

（以上2冊、ドン・ボスコ社）

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を
編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、
念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の
掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

K5 09・12月9日(水)2時~12月
15日(火)2時まで 東京・小金井・
聖霊会

N3 12月28日(月)2時~1/3(日)
2時 滋賀・唐崎・ノートルダム
(6泊7日)

2010年予定

M1 1/10(日)2時-1/16(土)2時
兵庫・売布・女子御受難会
(6泊7日)

K1 1/28(木)2時-2/3(水)2時
東京・小金井・聖霊会 (6泊7日)

Y1 2/13(土)2時-02/19(金)2時
神戸・須磨・ヨハネ (6泊7日)

先の予定表と若干変わっていますので、開
始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み
6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせ
てください。

電話では取り次いでおりません。申し込みは
会場予約準備がありますので、10日前迄に
完了をお願いします。

◎572-0001

大阪府寝屋川市成田東町3-27
「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072-802-5026
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約に決まった後に、会場までの詳しい
地図などの書類をお送りします。

真命山 祈りの集いのご案内

通年テーマ:聖パウロについて

レクツィオ・ディヴィーナ

祈りの集い(毎回午前10時~
午後2時半)

12月10日 聖パウロの殉教

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

園田 善昭神父

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

マリア デ・ジョウルジ シスター

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流
センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeian@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や
研修会も歓迎いたします。

(要予約)

お知らせ

11月号より、
掲載スペースの
関係上、諸所の
黙想企画記事を、
編集部で集約して
打ち込みました。
各御担当者の
皆様どうぞご了承ください。

センターニュース
編集係

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペ
ホール。どなたでも。聖書に基づきキリ
スト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～
20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3
階アルペホール。キリスト教の基礎知識
を持っている方。2年間のコース。信仰理
解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト
教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 下記の土曜日

9時30分～11時、また11時15分～
12時45分、岐部ホール4階404、2つの
講座・セミナーでキリスト教関係の思
想・哲学・神学を考察します。思想史と
キリスト教の関係に関心を持っている
方、プログラム等に関してHP(文末)
を見よ。11月28日、12月5日、12日、
2010年1月9日、16日、23日、30日。

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultulハイム1階左の
部屋。祝日を除く。3回座り、間に講話
があります。どなたでもどうぞ。初心者も
歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

●接心

(上石神井)
2010年2月6日(土)8時30分～7日(日)
15時30分 5,900円程度

●ミサ 水曜日 17時10分～18時
上智大学内 Kultulハイム1階
右小聖堂どなたでも。(但し、休日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時
上智大学内SJハウス第5会議室
黙想、講話、ミサがあります。
12月5日、2010年1月9日、2月20日、3月6日
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
Kultulハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
(但し、祝日休) 12月25日(金)はクリスマスの
黙想(予定)。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～11時55分 聖イグナチオ教会
マリア聖堂 但し、祝日休。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内 Kultulハイム1階右小聖堂。
どなたでも。但し、祝日休。

●黙想会

2010年3月13日(土)10時～14日(日)15時、
上石神井。一泊5900円程度。

●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、
ミサ(14時～18時)、上智大学内
SJハウス第5会議室
2010年1月23日(土)

●クリスマス会・クリスマスのミサ

12月19日(土)16時30分
聖イグナチオ教会マリア聖堂、
18時岐部ホール(予定)
要申し込み。
12月23日(水)14時～上智大学内
Kultulハイム聖堂

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座2009年～2010年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 11/27 人間の弱さ—罪とは何か
- 12/4 恵みとゆるし
—神の憐れみを受ける
- 12/11 愛の心—キリスト教の本質
- 12/18 隣人愛
—他人の内にイエスに出会う
- 12/19 クリスマス・パーティ
(16時30分マリア聖堂、18時岐部ホール・予定)
- 12/23 クリスマスのミサ
(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座2009年～2010年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

共通テーマ:「日常生活」
(11月17日～)

- 12/1 身体と生命—性と倫理
- 12/15 家庭と独身生活
～与えられた招きの発見
- 12/19 クリスマスのミサと
パーティー
(16時30分マリア聖堂、18時岐部ホール予定)
- 12/23 ミサ
(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)
- 2010年 1/5 お休み

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール
TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父
102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124{直通}
-5111{伝言}

いのちの泉へ(ノートルダム・ド・ヴィ)

「いのちの泉へ」

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

12月12日(土)

今後の予定 2010年1月23日(土)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ
177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamevie.japan@gmail.com

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎霊的同伴者

トニー・プロドニヤック(メリノール宣教師)

安井昌子(ノートルダム教育修道女)

菊池陽子(ノートルダム教育修道女)

松本佳子(ノートルダム教育修道女)

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

⑥12月27日(日)～

2010年1月4日(月)

※①～⑤終了

B. 祈りの体験:週末3日間

(金曜の夕食～日曜の昼食)

「神との親しさの中で日常を生きるために」

⑬12月 4日(金)～ 12月 6日(日)

⑭12月11日(金)～ 12月13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

※⑦～⑱終了

◎対象

信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎申し込み

1)名前、2)住所、3)電話番号、

4)希望日程(番号)を書いて郵送、

または、FAXで「黙想係」安井昌子へ

申し込んでください。唐崎修道院への

案内地図の必要な方は、その旨を

書き添えてください。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順15名です。

◎その他

受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。

問い合わせは、電話 または、e-メールをご利用ください。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



編集後記

先日、幼稚園のお誕生会へ招かれた。6歳を迎えたばかりの小さな可愛い男の子と女の子たち8人。父兄も出席していた。驚いたことに、お母さんだけでなく、お父さんも来ている。仕事はどうしたのだろうかと一瞬考えてしまう。おじいさんやおばあさんが来ているところも二三あった。

「一人ひとり、皆ほんとうに愛されているのだなー、幸せなんだなー」と感慨にふけっていると、園長先生から、その中の一人は、お母さんが出産と共に亡くなられたとのこと、他の一人は、両親はいるものの、いわゆる幼児虐待のため施設にあずけられているとの話を伺った。

いたいけな子供たちが、すでに重い人生を歩んでいることを知り、愕然とした。思わずその二人だけでなく、どの子も皆、人間として豊かに成長し、幸せな人生を歩んでほしいと手を合わさずにはおられなかった。

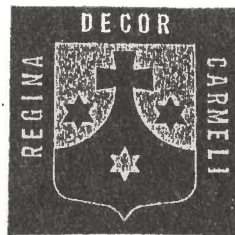
死の陰の谷に行く時も 私は災いを恐れない。

あなたが私と共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖、

それが私を力づける。(詩 23 : 4)

(P. 九里)



あなたにもできる

「靈性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「1月号」製本日

12月22日（火）

上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。靈性センター係

TEL 03・3704・2171